

人形劇で伝える身近な野生動物



木下裕美子・米澤 里美・江藤 公俊
 (有限責任事業組合 里山鳥獣研究所)

私達は主に兵庫県内で野生動物の追跡や痕跡調査等の仕事をしています。実際に対象動物に出遭う機会は殆どありませんが、日々動物の気配を感じながら仕事をしています。動物の死体や糞、食痕等は貴重な教材となるので、必要最低限だけ職場に持ち帰り処理・加工します。死体からは、足型・なめし皮・骨の標本等多くのサンプルや情報を得る事が出来ます。その中の一つ、「骨」を子供達に見せると、「それって本物？」との質問を良く受けました。私の子供時代もそうでしたが、動物は図鑑や動物園で遠くから見るだけの事が多く、実物に触れる機会はあまり多くはありません。そんな子供達に、私達が山の中で日々「見て・聞いて・発見した事」を伝えたいとの思いから、人形劇とワークショップを組み合わせたイベントを企画・実施しました。

実施日	実施場所	題名	内容	所要時間	ワークショップ	所要時間	対象年齢
2006年 2月5日	兵庫県動物愛護センター龍野支所 第「17回兵庫のまつりふれあいの祭典」事業	くまごろうの一年	子熊の「くまごろう」とその母熊のお話。ツキノワグマの春夏秋冬、それぞれの季節の食生活や行動を人形を用いて説明します。	30分	動物の毛皮やシリコンで作成した足型、頭骨、糞などを解説を交えながら実際に触ってもらいます。図鑑や写真では分からない、本物の感触や大きさを感じてもらえると思います。	30分	幼稚園 ～ 小学校 低学年
2006年 12月9日	三田市高平ふるさと交流センター	さんだの森のどうぶつたち	森に迷い込んだ女の子とその森に住む動物たちのお話。身近な森に住む動物達の生態を物語の中に沢山織り交ぜています。				
2007年 2月11日	人と自然の博物館	人形劇で伝える身近な野生動物	第2回共生のひろばにて人形劇を用いて活動紹介を行う	15分	実施せず		全ての来館者
2007年 2月18日	人と自然の博物館	にんぎょうげき	「くまごろうの一年」と「さんだの森のどうぶつたち」の2作品を実施	各回 30分	実施せず		幼稚園 ～ 小学生
2007年 3月18日	人と自然の博物館	にんぎょうげき	「くまごろうの一年」と「さんだの森のどうぶつたち」の2作品を実施	各回 30分	毛皮や足型、頭骨などを用いて解説を行う	各回 30分	幼稚園 ～ 小学生

今まで実施した過去のイベントでは、開始直前までは室内を駆け回っていた子供たちが、食いつける様に人形劇を観劇してくれたり、ワークショップ中に毛皮や骨を親の所まで持って行き、色々話しをしている姿などが特に印象的でした。

今後は、今までしてきた中で見えた反省箇所を改善し、人形劇のストーリーを増やして、どの地域へ行っても出来るような基盤を作り、学校や公民館、公共施設等で実施する機会を増やしていきたいと考えています。

私たちの活動に興味を持って頂き、「是非私たちの所でもやって欲しい」と思われましたら右記の連絡先までご連絡下さい。 木下：yukinoshita2@hotmail.com

